

「質の高いインフラ投資の推進に関する国連サイドイベント」

UN General Assembly High-Level Side Event: Promoting
Quality Infrastructure Investments
9月19日(火) 13:15~14:30
河野大臣ステートメント(約6分)

ミミツア (Mr. Neven Mimica) 国際協力・開発担当欧州委員,
ファレモ (Ms. Grete Faremo) 国連プロジェクト・サービス機関
(UNOPS)事務局長,
御列席の皆様,

本日は、お集まりいただき、感謝申し上げます。さて、
インフラというと皆様は何を思い浮かべますか。

世の中には、社会、経済インフラからデジタル・インフラまで、様々なインフラが存在します。その中で共通して言えることは、インフラとは、一国の経済発展の土台であるとともに、国家や地域間の連結性強化に寄与する世界の経済成長の源泉であるということです。インフラの整備なくして世界経済の一層の成長はないと言えるでしょう。

ただし、どのようなインフラでもあっても良いという訳ではありません。一定の基準に満たない質の低いインフラ整備は、持続的な成長の妨げとなるばかりか、ボトルネ

ツクとなりかねません。

高い安全性を誇り、環境面の負荷が小さく、現地に雇用創出や技術の移転をもたらす、裨益国の財務状況も考慮した「質の高いインフラ」こそが、途上国の開発に真に資するものです。また、こうしたインフラは開放的で透明性のある非排他的な運営が確保される必要があります。

先般国連で採択された「持続可能な開発のための2030 アジェンダ」でも、「質の高いインフラ」の重要性が指摘されています。

同時に、資金量に目を向けると、世界規模で膨大なインフラ需要が存在します。アジア開発銀行の調査によれば、例えばアジアにおいては2016年から2030年にかけて年間1.7兆ドルのインフラ投資が必要とされています。ところが、これに対して現状の投資額はその半分に過ぎません。

日本は、このような背景を踏まえ、資金量の増大に取り組むとともに、世界において「質の高いインフラ」の整備を推進し、このコンセプトの国際スタンダード化の議論を積極的に主導しております。

中でも、成長著しいアジアと潜在力溢れるアフリカを結ぶインド太平洋地域の開発は、国際社会の安定と平和に大きく貢献するとの考えの下、我が国は「自由で開かれたインド・太平洋戦略」を推進し、同地域の連結性向上を主眼とするインフラ整備に積極的に取り組んでおります。

「質の高いインフラ」の推進には、一か国の取組だけでは、それが如何に重要であろうと、不十分です。インフラ整備は国際社会全体の課題です。

昨年日本で主催したG7伊勢志摩サミットにおいて、「質の高いインフラ」の基準を示した「質の高いインフラ投資の推進のためのG7伊勢志摩原則」を策定しました。

この原則には、①ライフサイクルコストから見た経済性や安全性等の確保、②現地における雇用創出、技術・ノウハウの移転の確保、③社会・環境面の配慮、④被供与国の経済・開発戦略との整合性の確保、⑤効果的な資金動員の促進といった内容が盛り込まれています。これは、押しつけはしない、長い目で見て現地に根を張り、現地の人たちと共に考え、持続的開発に向けて共に歩むという日本の従来の開発援助に対する姿勢に則ったものです。

同時に、我が国は、資金量のギャップを埋めるための取組を全世界で進めており、先般、世界全体のインフラ整備のために5年間で約2000億ドルの資金を提供することを目標とする政策を発表しました。

実際に2015年は、譲許的な条件で供与される円借款を、前年に比べて倍増させました。また我々の支援は伝統的な橋や道路のみならず、幅広い分野に及んでいます。具体的には、例えば先週私が訪問したアフリカ・中東では、教育の質の向上のために約186億円の円借款の供与をエジプトに行いました。

資金ギャップを埋めるためには、公的資金のみならず、民間資金の動員することも不可欠です。

しかし、途上国への投資にはリスクが伴うためことがあるため、民間資金だけでは十分な投資が途上国へ向かいません。そこで、公的資金の効果的な投入により、リスクにおよび腰な民間資金を後押ししていくことが不可欠です。

日本は、民間資金動員のために、自らODAや他の公的資金を引き続き活用するとともに、民間資金の触媒となる公的資金を如何にすれば増やせるかについて、OE

CDにおいて、率先して範を示していきます。

また、資金量を増やすためには、国際機関との連携も重要です。日本は、本日出席しているアジア開発銀行(ADB)やアフリカ開発銀行(AfDB)等と引き続き連携していくと共に、これら機関の機能を強化していきます。

続くパネルディスカッションでは、「質の高いインフラ」に関する各国・機関の取り組みが共有され、国際社会における質の高いインフラ投資の推進の重要性が共有されることを祈念しつつ、私の冒頭挨拶とさせて頂きたいと思えます。

ご静聴ありがとうございました。